

大戸川ダム環境調査計画書 予測及び評価の手法(案)に対するご意見と、ご意見に対する考え方

No.	大戸川ダム環境調査計画書 予測及び評価の手法(案)に対するご意見	ご意見に対する考え方
1-1	根本的な問題として、『大戸川ダム 環境調査計画書 予測及び評価の手法(案)』に大戸川ダムの概要が示されない点を指摘する。例えば、第2回大戸川ダム環境保全委員会の「資料-3-2」の7頁にも記載のある通り、ダムでは「洪水調節地(ママ)内の土砂堆積」が必然的に発生するが、その評価には、少なくともダムの洪水吐や土砂吐の位置や形状についての諸元が必須となる。本計画書(案)には、環境調査の前提として必要になるこうした情報がまったく提供されていない。	「大戸川ダム環境調査計画書 予測及び評価の手法(案)」は、今後行う予測の手法及び評価の手法について定めたものです。本手法に基づく環境影響評価結果を示す「大戸川ダム環境調査結果報告書(原案)」では、予測、評価の基となる洪水吐の形状等の具体的なダムの構造や工事計画等について記載します。
1-2	本計画書(案)の「4.2.1 土砂による水の濁り」において、「予測の基本的な手法」として、「一次元河床変動モデル」を用いることとしている。出水時に湛水域の大幅な変動が生じるダム湖を含めた解析においては、「二次元河床変動モデル」を用いるべきであることは、もはや常識である。	ダム下流河川の土砂による水の濁りの変化については、一次元河床変動モデルにより行います。ただし、動植物及び生態系への影響予測を行う上で参考とするため、ダム下流河川の代表箇所など一部の範囲において、平面二次元河床変動モデルにより河床形状、河床材料の変化について予測を行う予定です。

本表では、いただいたご意見について、意見募集の注意事項を踏まえ、「大戸川ダム環境調査計画書 予測及び評価の手法」に関係する内容のみを記載しています。